

農業の新しい技術

No.593 (平成20年 7月)

分類コード 01 - 15

熊本県農林水産部

「ヒゴサカエ302」を活用した生産性の高い 交雑肉豚生産システム

農業研究センター 畜産研究所中小家畜研究室
担当者：松窪敬介

研究のねらい

平成15年度に当研究所において造成された本県独自のランドレース種(L)の系統豚「ヒゴサカエ302」は、三元交雑肉豚の基礎豚として、広く県内の養豚農家で利用されている。県では、給与飼料の改善等によってこの一部を高品質化し、県産ブランド「ひごさかえ肥皇」として市場への展開を図っている。

そこで、「ヒゴサカエ302」と大ヨークシャー種(W)のF1交雑母豚(LW/WL)に止雄としてデュロック種(D種)を交配して生産される「ひごさかえ肥皇」の振興を図るために、基礎豚であるランドレース種とW種およびD種との組み合わせ能力を明らかにする。

研究の成果

1. F1交雑母豚の繁殖成績は、すべての組み合わせで総産子数が12頭以上となる。中でも、ヒゴサカエ302×全農系Wとの組み合わせで、総産子数が14頭となり、育成率および4週齢時1腹総体重も最も高い成績が得られる。
2. 三元交雑肉豚では、ヒゴサカエ302×大分W×ユメサクラの組み合わせで、1日平均増体量(DG)が最も高く、1kgを超え、枝肉における背脂肪厚(背)は2.2cmと適度な値を示す。
3. その他の形質については、組み合わせによる大きな差は認められない。
4. 1日平均増体量に対し、中雄では大分系W(W3)の効果が最も大きく評価され、止雄ではユメサクラ系(D1)の効果が最も大きく、大分系D(D3)の効果がこれに次ぐ。

以上のことから、F1交雑母豚の繁殖性と最終的な三元交雑肉豚の産肉性とを総合的に考慮した場合、全農系Wもしくは大分系Wを交配したF1交雑母豚に、ユメサクラ系Dもしくは大分系Dを交配する組み合わせが、高い生産性を期待できるものと考えられる。

普及上の留意点

1. 推奨した系統の入手が困難な場合、農業研究センターが生産した推奨系統と同等の能力を有する種豚を活用すること。

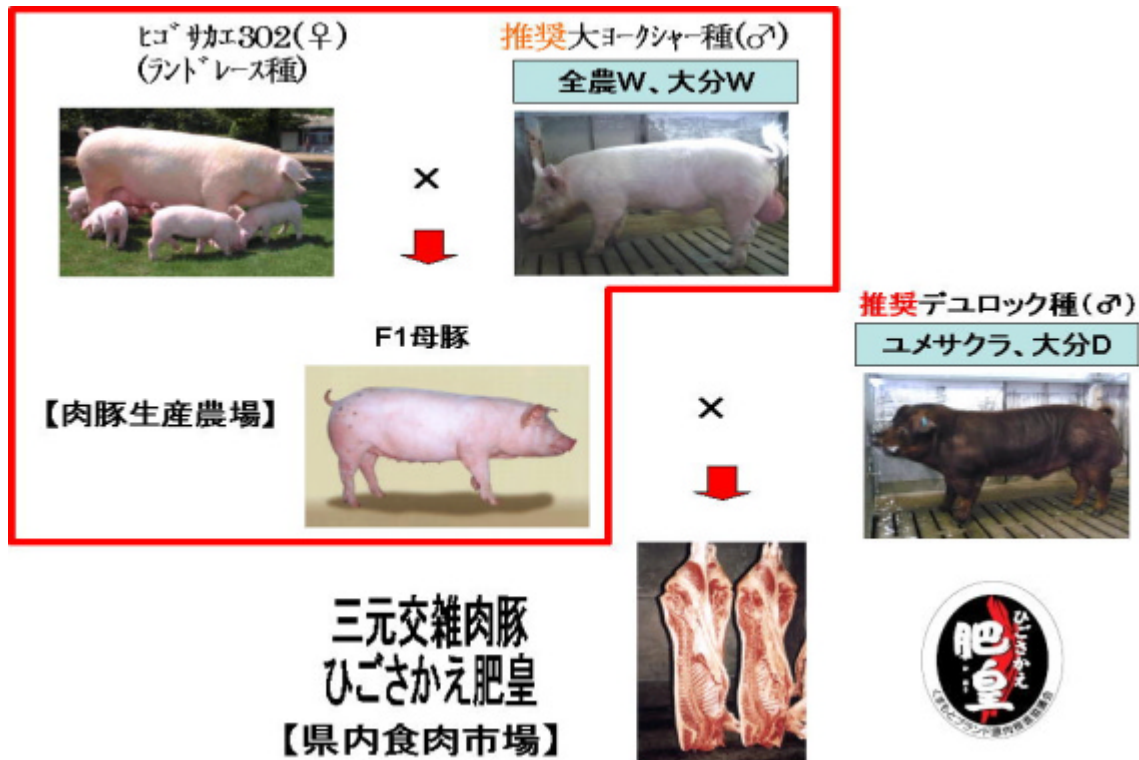


図1 3元交雑によるひごさかえ肥皇の生産システムと推奨系統

表1 F1交雑母豚の繁殖成績(初産)

組み合わせ	n	総産子数 (頭)	生存産子数 (頭)	育成率 (%)	生時体重 (kg)	4週齢時 1腹総体重(kg)
ヒゴサカエ302	4	12.0	10.8	90.1	1.5	74.8
× T系W		2.4	2.4	11.5	0.2	11.0
ヒゴサカエ302	3	14.0	13.7	97.6	1.5	92.4
× 全農系W		0.0	0.6	4.1	0.2	27.2
ヒゴサカエ302	3	12.3	11.7	95.6	1.2	53.5
× 大分系W		3.8	3.2	7.7	0.3	25.0

上段：平均値、下段：標準偏差

表2 三元交雑肉豚の産肉能力(最小二乗平均値)

組み合わせ ¹⁾	屠体長 (cm)	背腰長 (cm)	屠体幅 (cm)	枝肉歩留 (%)	背脂肪厚 (cm)				DG (g)
					肩	背	腰	超音波 ²⁾	
LW1 × D1	96.9	71.5	33.2	64.4	3.7	1.9	3.2	1.8	979
LW1 × D2	98.0	70.5	33.1	64.9	3.4	2.0	3.8	1.9	914
LW1 × D3	96.5	69.8	33.8	65.6	3.9	1.9	3.1	2.0	916
LW2 × D1	94.4	70.6	34.2	64.9	4.0	2.1	3.3	1.8	926
LW2 × D2	95.5	69.6	34.1	65.4	3.6	2.2	3.9	2.0	861
LW2 × D3	94.0	68.9	34.8	66.1	4.1	2.1	3.2	2.1	862
LW3 × D1	95.6	70.9	34.4	63.9	4.1	2.2	3.3	1.7	1058
LW3 × D2	96.6	69.9	34.3	64.4	3.7	2.2	4.0	1.8	993
LW3 × D3	95.1	69.2	35.0	65.1	4.2	2.1	3.3	1.9	995

1) L: ヒゴサカエ 302, W1:T系 W, W2:全農系 W, W3:大分系 W, D1:Tメサクラ系D, D2:全農系 D, D3:大分系 D

2)体長 1/2 部位の超音波測定値